

福岡市及び近郊における周産期医療の課題と対策（案）について【概要】

福岡市が主催する「福岡市及び近郊における周産期医療連絡会議^{*}」において、福岡市及び近郊における周産期医療の課題が明らかとなったため、以下のとおり報告します。

1. 母体搬送・新生児搬送の現状

(1) 母体搬送

- ① 1回目の母体搬送依頼に対する各施設の受入状況
母体搬送依頼総数の約3割は受入を断らざるを得ない状況
- ② 1回目の母体搬送依頼で受け入れられなかった患者への対応状況
おおむね現在の仕組みは機能しているが、ここ数年、福岡都市圏外への母体救急搬送件数が急増

(2) 新生児搬送

- ① 1回目の新生児搬送依頼に対する各施設の受入状況
新生児搬送依頼総数の1割近くは受入を断らざるを得ない状況
- ② 1回目の新生児搬送依頼で受け入れられなかった患者への対応状況
おおむね現在の仕組みは機能

2. 周産期医療に関する課題の整理	3. 課題解決のためにとり得る対策（案）
(1) 産科部門における課題	
① 産科病床不足	ア 周産期医療を担う施設における産科病床の増床 イ MFICU の整備
② 産婦人科医師のマンパワー不足、オーバーワーク	ア 産婦人科医師の労働環境の整備 イ 産婦人科の救急体制，医療体制の整備
③ 産婦人科の救急体制，医療体制の整備の必要性	ア 産科における一次・二次・三次医療施設の役割分担の明確化と連携体制の確立 イ 一次医療施設の機能活用に伴うバックアップ体制としての開放型病床の設置，オープン・セミオープンシステムの導入 ウ 先天性心疾患等，特定の疾患を持つ母体の分娩に対応する病院を専門分化 エ 婦人科救急体制の整備 オ 産婦人科における地域医療連携パスの導入
(2) 新生児部門における課題	
① NICU病床不足	ア NICU等新生児病床の増床
② 長期入院患者に対する診療体制の整備の必要性	ア Chronic NICU の整備 イ 重症児に対応できる一般病床あるいは重症心身障害児を受け入れる病床の整備 ウ 在宅の重症児に対する療育・療養支援の充実
③ 新生児科医師の不足，小児科医師のオーバーワーク	ア 新生児科医師，小児科医師の労働環境の整備

※ 福岡市及び近郊における周産期医療連絡会議について

【目的】 福岡市及び近郊における周産期医療体制の充実を図るため、福岡市立新病院が果たすべき医療機能についての具体的検討を行うとともに、各医療機関の連携のあり方について検討を行う。

【委員】 福岡市及び近郊において周産期医療を担う病院の産科・新生児科の実務代表者、福岡県産婦人科医会福岡ブロック会会長、福岡市医師会理事、福岡市保健福祉局理事